

発掘調査の概要

甘櫻丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第151次）

奈良県明日香村にある甘櫻丘は飛鳥地域や藤原京を一望できる丘陵です。現在は国営飛鳥歴史公園として整備され、多くの観光客が訪れる観光名所となっています。

2005年に丘陵東側の谷地を整備する計画が持ち上がりました。事前に試掘調査を実施し、7世紀の建物群を確認しました。『日本書紀』には蘇我氏が甘櫻丘に邸宅を構えたと記されており、建物群との関係が注目を集めました。

2006年から本格的な発掘調査が始まり、谷を埋め立てる大規模な整地、多くの掘立柱建物、石垣などが確認されました。しかし、谷は全体で6,000m²と広く、蘇我氏との関連の有無を確かめるためにも、さらなる発掘調査が必要です。今回の調査は2006年の調査区と隣接し、約950m²の範囲を設定しました。2007年11月から調査を開始し、1月から冬の現場班が引き継ぎ、現在も調査を続けています。

過去の調査によって、谷は7世紀を通じて活発な土地利用がなされていることが判明しています。建物は、敷地を整地しながら繰り返し建て替えられ、遺跡全体の変遷は十分に解明されていません。今回の調査はこれまで確認してきた建物の規模や遺跡の変遷を整理することが第一の目的です。



発掘調査の様子

傾斜地の発掘は難しく、慎重に掘り下げては清掃し、掘立柱の痕跡を探す作業が続きます。つぎつぎと柱痕跡は見つかるのですが、うまい具合に建物としてまとまりません。毎日、柱の位置を記録した図面を研究所に持ち帰り、並び方を調べて一喜一憂しています。すでにいくつかの建物を確認しましたが、全体の変遷を解明するにはまだ時間が必要です。なお、建物以外にも7世紀末頃の溝、近世の石垣などを確認しています。

2005年の発掘調査でも、昨年の発掘調査でも、現地説明会には5,000人を超える見学者がありました。すでに問い合わせも多く、担当者にとってはかなりの重圧です。しかし、こんなに注目される遺跡を調査できる機会は滅多にないでしょうから、重圧を楽しみつつ、全力で発掘に当たりたいと思っています。

（都城発掘調査部 豊島 直博）



溝の掘り下げ



並ぶ柱痕跡